

Kansai Economic Insight Monthly

2021/10/25

Vol.102 September/October

▼APIR“Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学名誉教授、APIR 研究統括兼数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋薇(APIR 研究員)、野村亮輔(APIR 研究推進部員)、吉田茂一(APIR 研究推進部員)、車競飛(APIR インターン)です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI,CLI	2
総括判断	3
COVID-19 モニター	3
生産・労働関連	4
内需関連	7
センチメント	10
外需関連	11
中国景気モニター	13
主要月次統計	17
Release Calendar	18

要旨

景気は足下、先行きともに改善：

今後センチメント改善によりサービス消費持ち直しに期待

- ✓ 関西の景気は、**足下、先行きともに改善傾向**が続いている。緊急事態宣言解除の決定もあり今後センチメントは改善が予想されるため、**サービス消費の持ち直しが期待される**。一方、中国の内需減速により対中輸出の不透明感が高まっている。
- ✓ 関西のCOVID-19の1日当たり新規陽性者数(7日移動平均)は、8月28日にピークを打ち、足下では低水準が続いている。時短要請など感染対策の解除により、今後は緩やかではあるものの、サービス消費の回復が見込まれよう。
- ✓ 8月の鉱工業生産は2カ月連続の前月比低下。世界的な半導体不足による電気・情報通信機械や輸送機械の大幅減産が影響した。
- ✓ 8月の完全失業率は4カ月連続の小幅改善だが、感染対策の影響で就業者の減少が続く。8月の有効求人倍率は2カ月連続の下落。雇用情勢は依然厳しい状況が続いている。
- ✓ 7月の関西2府4県の現金給与総額は名目で5カ月連続、実質で7カ月連続の前年比増加だが伸びは小幅にとどまった。コロナ禍の影響がない前々年比はいずれも減少。賃金は依然低調である。
- ✓ 8月の大型小売店販売額は2カ月ぶりの前年比減少。急激な感染拡大と緊急事態宣言発令による外出自粛や長雨が影響し、百貨店とスーパーの販売額はいずれも前月より悪化した。
- ✓ 8月の新設住宅着工戸数は3カ月ぶりの前月比減少。分譲マンションの大幅減少が寄与。ただし、ウッドショックの緩和とアパートローンの底打ちの兆しが出ており、今後持ち直しの基調が続くと予想される。
- ✓ 8月の建設工事出来高は13カ月連続の前年比増加。うち、公共工事出来高は23カ月連続の同増加。9月の公共工事請負金額は5カ月ぶりの前年比減少となった。
- ✓ 9月の景気ウォッチャー現状判断DIは緊急事態宣言解除の決定もあり2カ月ぶりの前月比改善。先行きはワクチン接種の進展や宣言解除による規制緩和の期待から3カ月ぶりに改善した。
- ✓ 9月の貿易収支は20カ月連続の黒字だが、黒字幅は前月から縮小した。輸出は7カ月連続、輸入は8カ月連続の前年比増加。輸出はアジア向けの半導体等電子部品が好調で、輸入は中国からの通信機、EUからの医薬品の増加が寄与した。
- ✓ 9月の関空への外国人入国者数は3,079人となり、前月から幾分増加した。7-9月期は前期から増加したが、コロナ禍前の水準と比べれば、依然低水準の状況が続く。
- ✓ 7-9月期、中国の実質GDP成長率は前年同期比+4.9%と、前期に比して大幅下落した。自然災害の頻発や、一部地域における電力供給制限が製造業を中心に大きな影響を与えた。

【関西経済のトレンド】

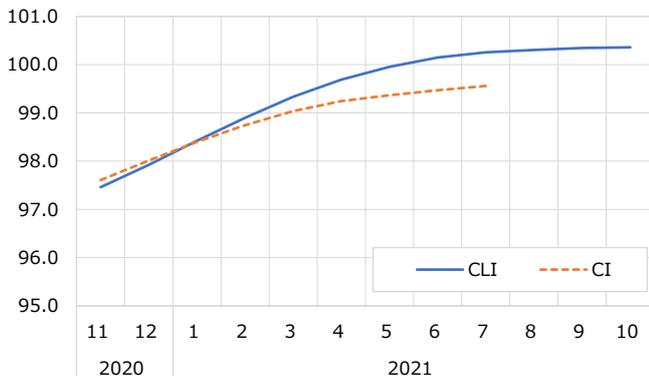
	2020年			2021年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生産	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	
雇用	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘	
消費	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↗	↘	
住宅	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↘
センチメント	↗	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↗	↘	↘	↗
貿易	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘
中国	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↘

(*トレンドの判断基準)

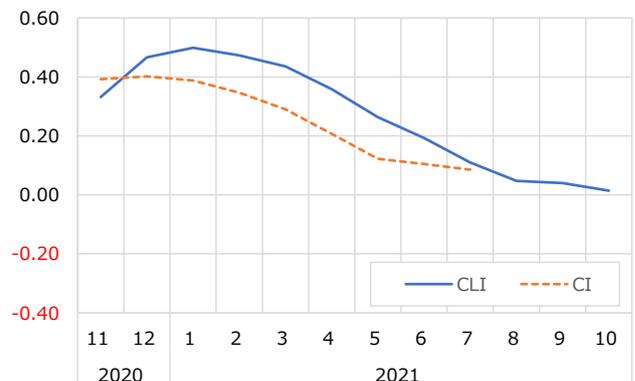
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI 一致指数・CLI)の推移】

直近1年間のCI・CLIの推移(2020年11月～21年10月)



直近1年間のCI・CLIの前月差(2020年11月～21年10月)



(注) 指数は2013年1月～21年7月までのデータで計算されている。

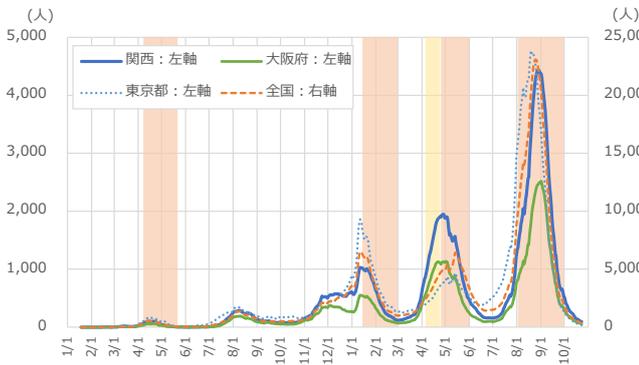
【総括判断】

8月生産は世界的な半導体不足が関連業種的大幅減産に繋がった。雇用・所得環境は弱い動きが続く。消費は急激な感染拡大と長雨の影響で前月から悪化。9月センチメントは緊急事態宣言解除の決定もあり前月から改善。輸出はアジア向けの半導体等電子部品などが好調で持ち直しが見られる。一方、中国は内需の減速もあり先行き不透明感が高まっている。

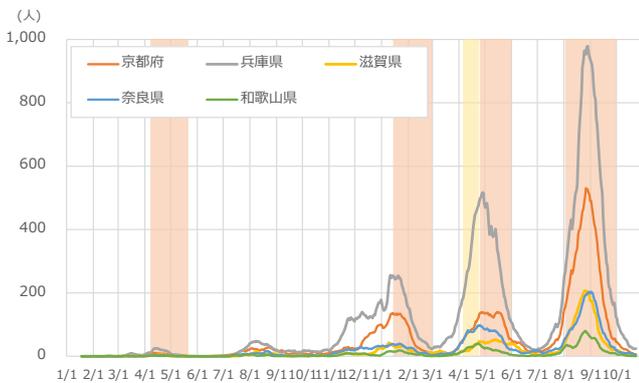
【COVID-19 モニター】

関西における COVID-19 の1日当たりの新規陽性者数(7日間後方移動平均、最終更新日:10月23日)を見ると、8月28日に第5波のピークを打ち、その後減少傾向で推移している。9月30日に緊急事態宣言が解除された後も減少が続いており、直近の10月23日は96人と、新規陽性者数が昨年10月23日(94人)以来100人を下回る低水準であった。

全国と関西の新規陽性者数の推移(2020年1月~21年10月23日)



関西の新規陽性者数(除く大阪府:2020年1月~21年10月23日)



(注) 後方7日間移動平均。赤色のシャドー部分は緊急事態宣言、オレンジ色はまん延防止措置実施期間。

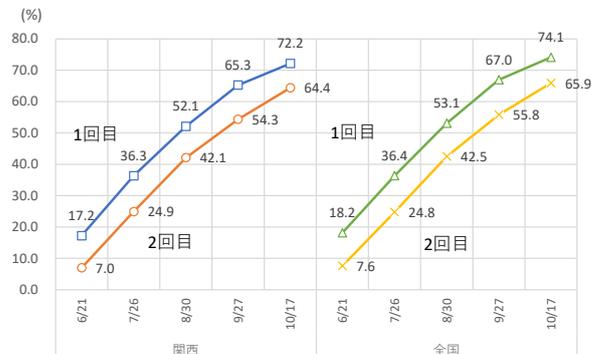
(出所) 厚生労働省発表資料等より作成

関西各府県の動向をみると、いずれの府県でも新規陽性者数は8月下旬をピークに減少が続いている。直近の10月23日では、滋賀県で4人、京都府で6人、大阪府で56人、兵庫県で24人、奈良県で4人、和歌山県で0人となり、いずれも低水準であった。

政府は9月30日の期限をもって、大阪府や東京都など19の都道府県に出されていた緊急事態宣言と、8県のまん延防止措置の解除を行った。こうした中、京都府、大阪府、兵庫県の3府県では、感染再拡大を防ぐため、宣言解除後も感染対策を行っているとして自治体が認証した事業者に限り、営業時間短縮や酒類提供時間の制限を緩和する段階的な措置を行っている。その後、新規陽性者数の減少や病床使用率が低水準で推移するなど、感染状況が改善していることを受け、京都府と兵庫県では22日以降、大阪府では25日以降に、飲食店などへの時短要請や酒類提供の時間制限を解除した。経済活動の正常化に伴い、緩やかではあるものの、サービス消費の回復が見込まれよう。

ワクチン接種率は、10月17日時点で1回目72.2%、2回目64.4%となっている。比較的ワクチン接種率が低い若年層の接種率向上のため、大阪府や兵庫県では、2回の接種を終えた学生や若者を対象に、クーポンやポイント付与などのインセンティブ策を設けている。足下では新規陽性者数は減少が続いているが、今後懸念される「第6波」に備えてワクチン接種率を高めることで、感染拡大や重症化を防ぎ、医療提供体制への負荷の軽減が期待される。

関西と全国のワクチン接種回数の人口比(2021年10月17日まで)



(注) 医療従事者と高齢者を含む一般接種の合計。対人口比。
(出所) 首相官邸 HP より作成(2021年10月18日公表時点)

【生産・労働関連】

(1) 生産動向

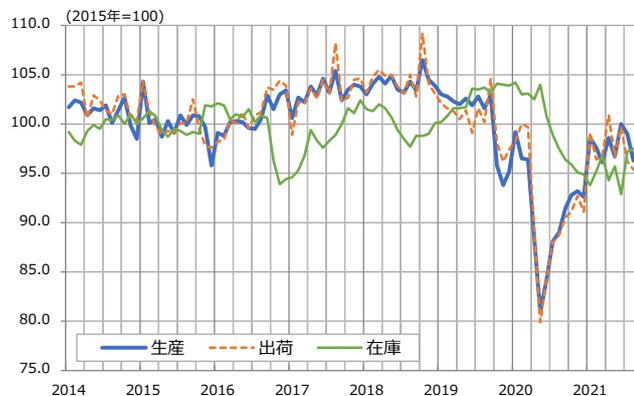
関西8月の鉱工業生産動向(速報値:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は96.3で前月比-2.7%であった。世界的な半導体不足による電気・情報通信機械工業や輸送機械工業の大幅減産もあり、2カ月連続で低下した。近畿経済産業局は同月の基調判断を「足踏みをしている」と7カ月ぶりに下方修正した。7-8月平均を4-6月平均と比較すると、-0.8%低下した(4-6月期:前期比+1.0%)。

業種別では、減産となったのは、電気・情報通信機械工業(前月比-13.4%、2カ月連続)、輸送機械工業(同-10.6%、2カ月連続)、生産用機械工業(同-8.9%、2カ月ぶり)、電子部品・デバイス工業(同-6.4%、2カ月連続)等であった。一方、増産となったのは、汎用・業務用機械工業(同+3.7%、2カ月ぶり)、食料品・たばこ工業(同+2.0%、3カ月連続)、プラスチック製品工業(同+1.0%、2カ月連続)、鉄鋼・非鉄金属工業(同+0.6%、2カ月ぶり)等であった。

なお、生産と強い関係がある日本銀行大阪支店の実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、8月(確報値)は120.5で前月比+0.6%上昇し2カ月ぶりのプラスであった(前月:同-3.5%)。

8月の出荷は95.4で前月比-0.8%と2カ月連続で低下し、在庫は97.5で同+0.3%と2カ月連続で上昇した。

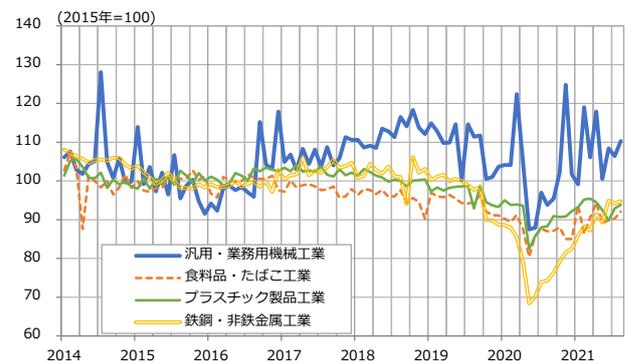
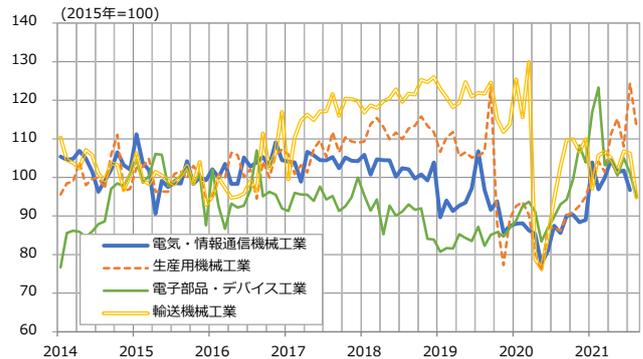
関西の鉱工業生産動向の推移(2014年1月~21年8月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2014年1月~21年8月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

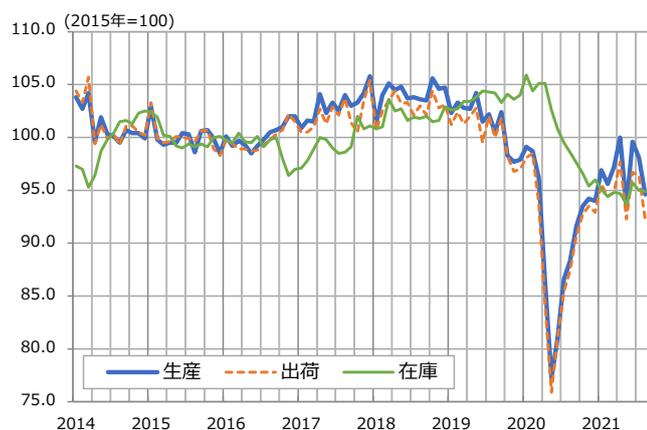
全国8月の鉱工業指数(確報:季節調整済、2015年=100)を見ると、生産は94.6で伸びは前月比-3.6%と2カ月連続で低下した。半導体不足や東南アジアにおけるCOVID-19感染拡大の影響による部材調達の停滞が自動車などの減産に影響した。7-8月平均は4-6月平均比-1.4%低下した。

業種別に見ると、減産となったのは自動車工業(前月比-15.2%)、電気・情報通信機械工業(同-10.7%)、食料品・たばこ工業(同-2.3%)等であった。一方、増産となったのは、窯業・土石製品工業(同+2.2%)、無機・有機化学工業(同+1.3%)、石油・石炭製品工業(同+2.9%)であった。

8月の出荷は92.2で前月比-4.4%、在庫は94.9で同-0.1%といずれも2カ月連続で低下した。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、9月は前月比+0.2%、10月は同+6.8%といずれも増産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2014年1月～21年8月)

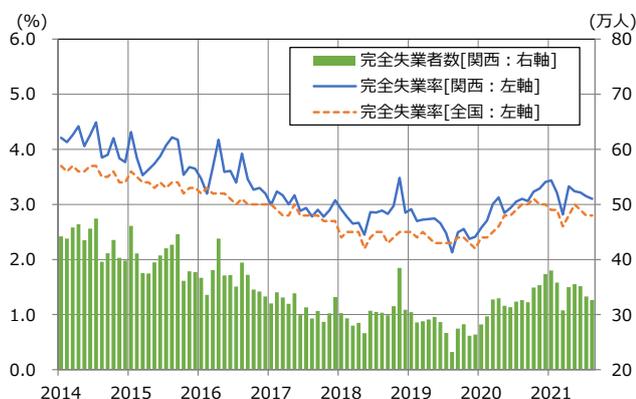


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(2) 完全失業者数と就業者数

関西8月の完全失業率は3.1%と前月差-0.0%ポイント小幅下落し、4 カ月連続の改善(以下の関西の数値は注記が無い限り季節調整値ベース:APIR 推計)。完全失業者数は33万人で同-1万人となり、3 カ月連続の減少であった。労働力人口は1,075万人で同-9万人と2 カ月連続の減少。非労働力人口は721万人で同+10万人と2 カ月連続の増加。また、就業者数は1,042万人で同-9万人と2 カ月連続の減少で、前月(同-7万人)からマイナス幅は拡大した。8月は新規陽性者数が急増する中、緊急事態宣言対象地域が拡大されたことにより、経済・社会活動が抑制された影響が大きかったとみられる。関西における雇用情勢は依然厳しい状況にあるといえよう。

完全失業率の推移(2014年1月～21年8月)



(出所) 総務省「労働力調査」

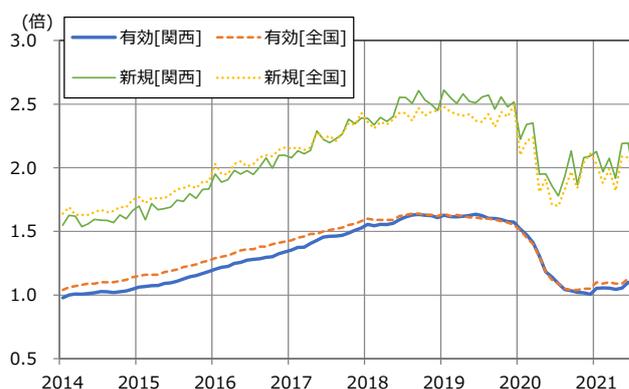
全国8月の完全失業率(以下、季節調整値)は2.8%となり前月から横ばい。完全失業者数は191万人で前月から+1万人となり、2 カ月連続の改善ののち、小幅増加であった。労働力人口は6,866万人で同-33万人と3 カ月ぶりの減少。非労働力人口は4,166万人で同+32万人と3 カ月ぶりの増加。就業者数は6,676万人で同-32万人と3 カ月ぶりの減少であった。

(3) 求人倍率

関西8月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.06倍で前月差-0.03ポイントと2 カ月連続の下落であった。有効求人数は横ばいであった(同+0.0%)が、有効求職者数が同+3.3%増加(2 カ月連続)したことで、倍率を押し下げた。

8月の有効求人倍率(受理地別)を、府県別に高い順から見ると、奈良県は1.18倍(前月差-0.05ポイント)、京都府は1.11倍(同-0.03ポイント)、大阪府は1.10倍(同-0.04ポイント)、和歌山県は1.09倍(同-0.03ポイント)、兵庫県は0.94倍(同-0.03ポイント)、滋賀県は0.94倍(同-0.02ポイント)であった。

求人倍率(受理地別)の推移(2014年1月～21年8月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

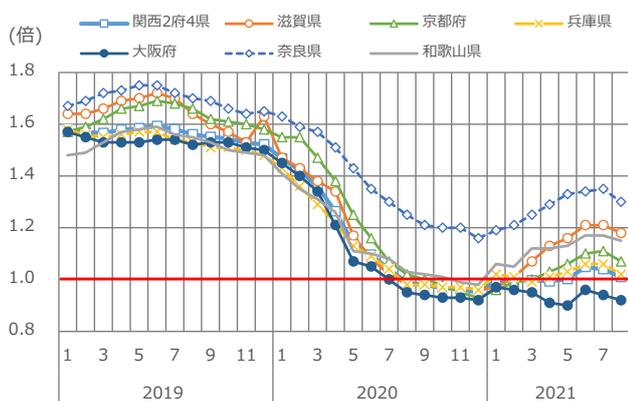
全国と関西2府4県の有効求人倍率の比較(2021年7-8月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
7月	1.15	1.09	0.96	1.14	1.14	0.97	1.23	1.12
8月	1.14	1.06	0.94	1.11	1.10	0.94	1.18	1.09
前月差	▲0.01	▲0.03	▲0.02	▲0.03	▲0.04	▲0.03	▲0.05	▲0.03

(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

なお、職場別に集計した就業地別の有効求人倍率では、関西8月は1.01倍で前月差-0.03ポイントと2カ月連続の下落であった。府県別に見ると、大阪府では0.92倍で2カ月連続の下落。昨年8月より1倍を下回る状況が続いている。

有効求人倍率(就業地別)の推移(2019年1月～21年8月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

雇用の先行指標である新規求人倍率を見ると、関西8月は1.95倍で前月差+0.06ポイントと3カ月ぶりの上昇。新規求人数が前月比+0.8%増加(2カ月ぶり)した一方、新規求職者数は同-2.3%と減少(3カ月ぶり)したことによる。前月は「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金」の申請受付が開始されたため新規求職者数が大幅に増加した(同+13.2%)が、今月はその影響が幾分落ち着いたようである。

8月の新規求人数を産業別にみれば(原数値)、全ての産業で増加した(全体では前年同月比+7.9%と5カ月連続のプラス)。特に製造業では好調な輸出を背景に同+33.0%と2カ月連続の大幅増加(7月: 同+36.2%)。低調であった宿泊・飲食サービス業でも同+10.0%と3カ月ぶりの増加であった。

全国8月の有効求人倍率(季節調整値)は1.14倍で前月差-0.01ポイントと4カ月ぶりの低下。新規求人倍率は1.97倍で同-0.01ポイントと3カ月連続の低下であった。

(4) 現金給与総額

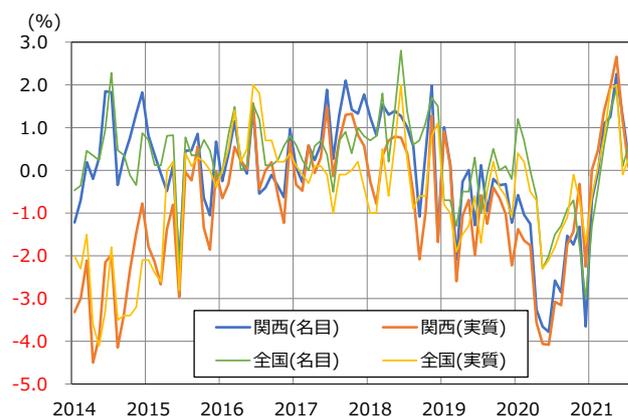
関西2府4県の7月の現金給与総額(APIR推計)は36万8,357円で前年同月比+0.3%増加し5カ月連続の改善だが、

伸びは2カ月連続で減速した。また、コロナ禍の影響がない前々年同月比では-2.3%であった(6月: 同-2.6%)。

府県別に増加幅の大きい順に並べると、滋賀県は前年同月比+6.9%(2カ月連続)、和歌山県は同+5.6%(7カ月連続)、京都府は同+2.1%(7カ月連続)、大阪府は同+0.1%(2カ月ぶり)であった。一方、奈良県は同-4.9%(8カ月連続)、兵庫県は同-1.8%(5カ月ぶり)と、それぞれ減少した。

また、物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた関西2府4県の実質現金給与総額(実質賃金)は、7月は前年同月比+0.1%と7カ月連続の増加だが、伸びは小幅であった(前々年同月比: -2.9%)。関西の所得環境は厳しい状況が続いている。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2014年1月～21年8月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2017年平均)で加重平均

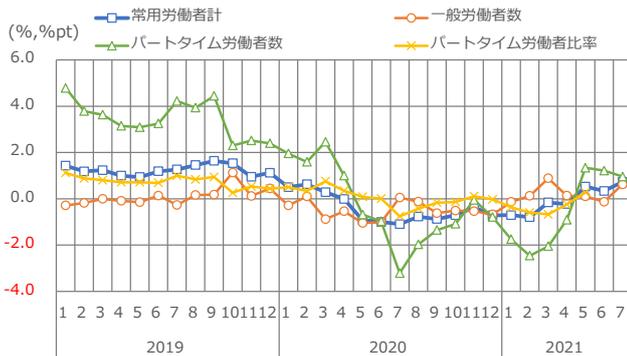
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

また、7月の関西2府4県の常用労働者数は前年同月比+0.7%と3カ月連続の増加。うち一般労働者は同+0.6%と2カ月ぶりの増加、パートタイム労働者は同+1.0%と3カ月連続の増加であった。結果、パートタイム労働者比率は34.5%と前年同月から+0.1%ポイント小幅上昇し、3カ月連続のプラスであった。

全国8月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+0.6%と6カ月連続の増加(前々年同月比: -0.7%)。所定内給与は同横ばい。所定外給与は同+6.0%と5カ月連続の増加。特

別に支払われた給与は同+3.0%と3カ月ぶりの増加。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた実質現金給与総額(実質賃金)は同+0.1%と2カ月連続の増加だが、伸びは小幅にとどまった(前々年同月比:-1.3%)。

関西の常用労働者の動態(前年同月比: 2019年1月~21年7月)



(出所) 関西2府4県の自治体の公表資料より作成

【内需関連】

(1) 大型小売店販売額

関西8月の大型小売店販売額(百貨店+スーパー、全店ベース)は2,785億円で前年同月比-6.4%と2カ月ぶりに減少した。コロナ禍の影響がない前々年同月と比較すると、販売額は-12.3%と、前月(-6.4%)と比べて一段と低い水準となっている。急激な感染拡大と緊急事態宣言の発令による外出自粛や長雨が影響した。

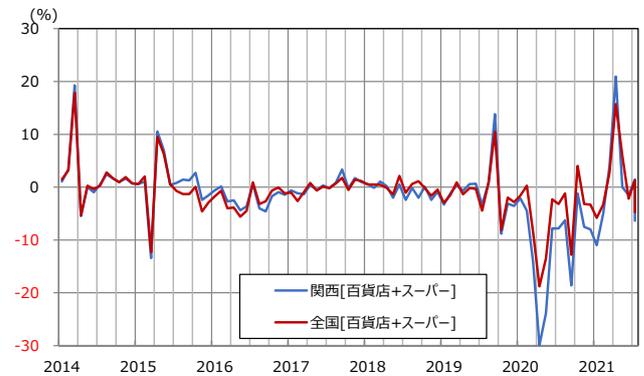
大型小売店販売額のうち、百貨店は前年同月比-14.7%(前々年同月比:-32.8%)で、2カ月ぶりのマイナス。外出自粛や感染防止のための入場制限に加え、天候不順も集客に影響した。商品別で見ると、好調だった飲食料品やその他の商品を含め、全ての品目が前年同月比マイナスに転じた。

一方、スーパーは前年同月比-2.7%(前々年同月比-0.9%)と、2カ月ぶりの減少となった。長雨と気温低下により季節商品が不調で、野菜の相場安もあり、飲食料品やその他の商品等主要な品目は全て不調となった。

なお、9月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比+82.4%と4カ月連続の増加。前々年同月比では、売

上高は-86.0%と8月(同-81.5%)より減少幅は拡大した。百貨店免税売上高は依然として厳しい状況が続いている。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2014年1月~21年8月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

業態別の推移(前年同月比:2014年1月~21年8月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

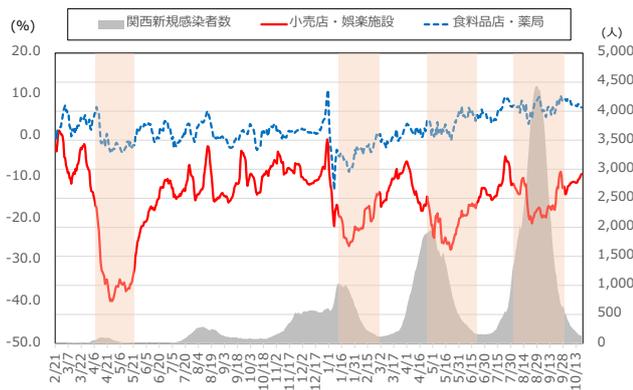
全国8月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆6,079億円で、前年同月比-4.8%と2カ月ぶりの減少となった(前々年同月比:-5.9%)。うち、百貨店は同-13.9%(前々年同月比:-32.2%)と、スーパーは同-2.3%(前々年同月比:+3.2%)と、それぞれ2カ月ぶりに減少した。

経済産業省「商業動態統計調査」によると、全国の小売業販売額(季節調整済)は、前月比-4.1%と3カ月ぶりに減少。また、前月比の3カ月後方移動平均は+0.0%と前月から横ばいとなった。経済産業省は小売業の基調判断を「横ばい傾向にある」と前月から据え置いた。

関西の小売店と娯楽施設への人流(Google社 COVID-19 コミュニティ モビリティ レポート:ベンチマークからの増減率)を見ると、9月(-15.2%)は前月(-15.8%)から縮小幅

がほぼ横ばいとなった。9月に入り新規陽性者数が減少傾向だが依然高水準であり、緊急事態宣言による売り場への時短や人数制限要請などが続いていたためである。一方、食料品店と薬局への人流も、9月(+7.1%)は前月(+6.9%)からほぼ横ばいであった。このため小売業販売額は、9月は低調が続くと見込まれる。

新規陽性者数と人流の動態(2020年2月15日~21年10月19日)



(注1) 7日間後方移動平均。人流の増加率は基準値(2020年1月3日~2月6日の5週間の曜日別中央値)と比較した変化。関西の人流は人口(令和2年国勢調査速報)をウェイトとして計算した2府4県の人流の加重平均。

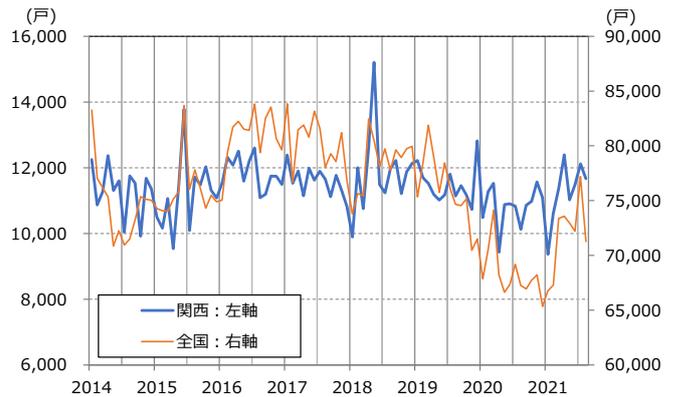
(注2) 赤色のシャドー部分は緊急事態宣言期間。

(出所) Google社「コミュニティ モビリティ レポート」より作成

(2) 新設住宅着工

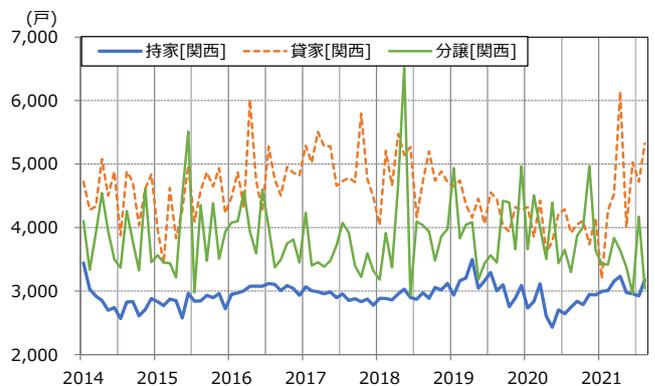
関西8月の新設住宅着工戸数(原数値)は11,194戸となり、前年同月比+15.2%と5カ月連続のプラス。また、季節調整値(APIR推計)は11,667戸で、前月比-3.8%と3カ月ぶりに減少した。利用関係別に見ると、持家は3,177戸で同+8.7%と4カ月ぶりに、貸家は5,323戸で同+12.8%と2カ月ぶりに、それぞれ増加した。一方、分譲は3,042戸で同-27.1%と2カ月ぶりに減少した。うち、マンションは1,135戸で同-53.4%と2カ月ぶりに減少。前月の大幅増への反動による分譲マンションの減少は全体の減少に寄与した。一方、住宅用木材の値上がりが鈍化し始めており、ウッドショックに緩和の兆しが見られる。また、2018年度以降低迷していたアパートローンにも底打ちの兆しが出ている。そのため、今後持ち直しの基調が続くと予想される。

新設住宅着工戸数の推移(季節調整値 2014年1月~21年8月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

利用関係別の推移(季節調整値 2014年1月~21年8月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

全国8月の新設住宅着工戸数(原数値)は74,303戸となり、前年同月比+7.5%と6カ月連続の増加となった。季節調整値では71,265戸となり、前月比-7.7%と2カ月ぶりの減少。利用関係別に見ると、持家は24,354戸(同-3.5%)と2カ月ぶりに、貸家は26,862戸(同-7.5%)と3カ月ぶりに、分譲は19,515戸(同-13.3%)と2カ月ぶりに、いずれも減少した。

(3) マンション市場動向

関西9月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は60.2%(以下、季節調整値はAPIR推計)と、前月比+0.7%ポイントと2カ月ぶりに上昇した。好不況の境目(70%)を2カ月連続で下回った。契約率を府県別に見ると(以下、原数値)、兵庫県下(73.6%)は高水準であったが、神戸市部(41.5%)、大阪市部(59.3%)、大阪府下(69.9%)などは低水

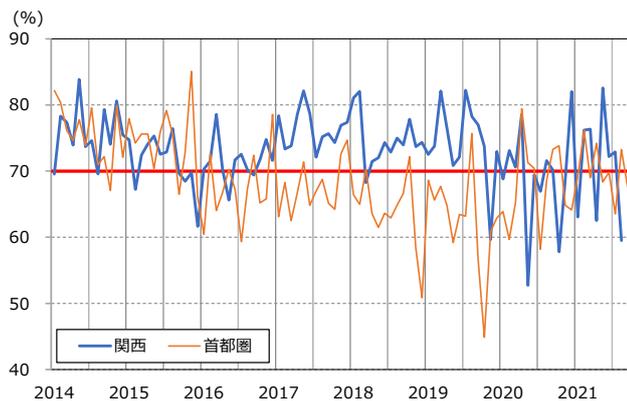
準となった。また、新規発売戸数は1,210戸と前年同月比-1.5%、2カ月連続で減少した。

結果、7-9月期の契約率は64.2%(季節調整値)となり、3四半期ぶりに70%を下回った(4-6月期:72.4%)。契約率は5四半期ぶりの前期比悪化となった。

9月の首都圏のマンション契約率は67.6%(季節調整値)、前月比-5.6%ポイントと2カ月ぶりの低下となり、好不況の境目(70%)を2カ月ぶりに下回った。また、新規発売戸数は2,311戸で前年同月比-6.7%、2カ月ぶりに減少した。

結果、7-9月期の契約率は68.1%(季節調整値)となり、3四半期ぶりに70%を下回り、2四半期連続の前期比悪化となった(4-6月期:70.8%)。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2014年1月~21年9月)



(出所) 不動産経済研究所「マンション市場動向」

(4) 建設工事

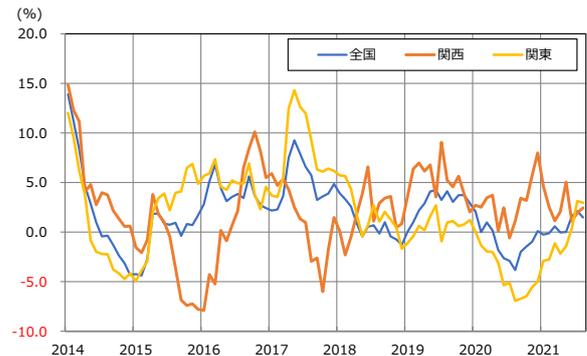
関西8月の建設工事出来高は5,561億円の前年同月比+2.4%と13カ月連続の増加となった。公共機関が発注した工事のみを対象とした出来高ベースで見ると、公共工事出来高は同+10.7%と19年10月以降23カ月連続の増加であった(前月:同+10.4%)。

一方、関東の建設工事出来高は1兆4,886億円の前年同月比+3.0%と3カ月連続の増加。公共工事出来高は同-4.4%と15カ月連続の減少となった。

全国8月の建設工事出来高は4兆2,965億円、前年同月比+1.5%と4カ月連続の増加となった。うち、公共工事は1兆7,215億円、同-3.6%と2カ月連続の減少であった。

なお、10月19日公表時点で18年度以降のデータが遡及改訂されていることに注意。

建設工事出来高の推移(前年同月比:2014年1月~21年8月)



(注) 2021年4月分より遡及改訂された値を反映している

(出所) 国土交通省「建設総統計」

公共工事出来高の推移(前年同月比:2014年1月~21年8月)



(注1) 地域別の推移は、21年3月以前は年度報による遡及改定値(直近3年分)、4月以降は最新の公表表から作成。

(注2) 関東は公表表における北関東および南関東の合計より作成。

(出所) 国土交通省「建設総統計」

(5) 公共工事請負金額

9月の公共工事請負金額は関西、全国ともに前年比大幅減少となった。

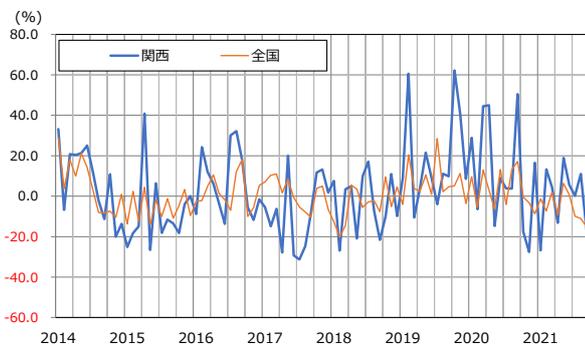
関西9月の公共工事請負金額は1,505億円、前年同月比-16.7%と5カ月ぶりの減少。季節調整値(以下、APIR推計)で見ると、前月比-6.4%と2カ月ぶりの減少となった。前年同月に国土交通省、および関西エアポートからの受注の大幅増加の裏が出たものと考えられる。

7-9 月期の関西の請負金額は前年同期比-4.1%と 4 四半期連続の減少(4-6 月期: 同-1.7%)。季節調整値でも前期比-2.9%と 3 四半期ぶりの減少となった(4-6 月期: 同+1.7%)。

全国 9 月の公共工事請負金額は 1 兆 2,682 億円、前年同月比-15.1%と 3 カ月連続の減少となった。季節調整値では前月比-2.2%と 3 カ月連続の減少であった。

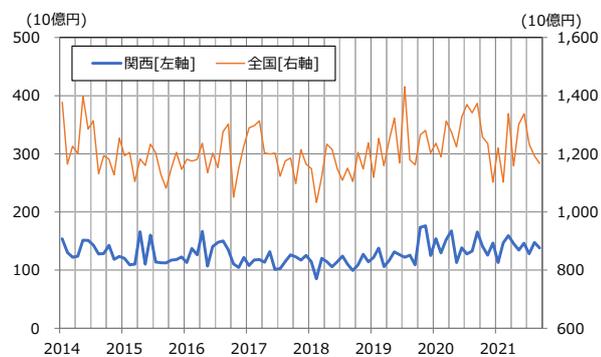
7-9 月期の全国の請負金額は前年同期比-12.0%と 4 四半期連続の減少(4-6 月期: 同-2.2%)。季節調整値では前期比-5.4%と 3 四半期ぶりの減少となった(4-6 月期: 同+3.7%)。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2014 年 1 月~21 年 9 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季節調整値)の推移(2014 年 1 月~21 年 9 月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

【センチメント】

(1) 消費者態度指数

関西 9 月の消費者態度指数(季節調整値: APIR 推計)は 37.2、前月差+0.4 ポイントと 3 カ月ぶりに上昇した(前月: 同-0.7 ポイント)。9 月に入り新規陽性者数が減少傾向で推移していたことが改善に影響した。

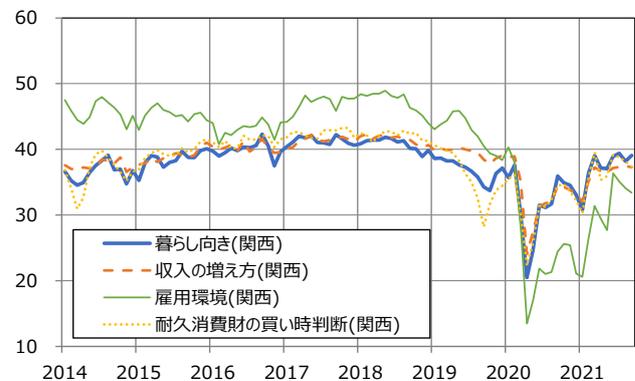
同指数構成項目のうち、暮らし向き指数(39.1)は前月差+0.9 ポイントと 2 カ月ぶりに上昇した。一方、耐久消費財の買い時判断指数(37.4)は同-0.8 ポイント、雇用環境指数(33.4)は同-0.7 ポイント、いずれも 3 カ月連続で、収入の増え方指数(37.3)は同-0.1 ポイントと 4 カ月ぶりに低下した。後述するように全国は構成項目すべてが上昇したが、関西は暮らし向き以外の指数が低下しており、改善のペースに差がみられる。

消費者態度指数の推移(2014 年 1 月~21 年 9 月)



(出所)内閣府「消費動向調査」

消費者態度指数構成項目の推移(2014 年 1 月~21 年 9 月)



(出所)内閣府「消費動向調査」

全国(季節調整値)は 37.8 で前月差+1.1 ポイントと 2 カ月ぶりに上昇した。新規陽性者数の減少に加え、ワクチン接種の進展もあり、2020 年 2 月(38.4)以来の水準となった。

同指数構成項目 4 指標すべてが前月から上昇した。うち、雇用環境指数(36.1)は前月差+2.9 ポイント、暮らし向き指数(39.2)は同+1.1 ポイント、収入の増え方指数(38.1)は同+0.5 ポイントと、いずれも 2 カ月ぶりに、耐久消費財の買い時判断指数(37.8)は同+0.1 ポイントと 3 カ月ぶりにい

れも上昇した。内閣府は9月の基調判断を「依然として厳しいものの、持ち直しの動きが続いている」と前月から据え置いた。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西9月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は42.0と前月差+5.8ポイント上昇し、2カ月ぶりに改善した(前月:同-13.5ポイント)。全国と同指数も42.1と同+7.4ポイント上昇した。2カ月ぶりの改善。関西、全国ともにCOVID-19の感染状況が落ち着き、緊急事態宣言の解除が決定されたことで、小売関連やサービス関連などを中心に改善した(調査期間:9月25日から30日)。

先行き判断DI(季節調整値)は、関西は54.5と前月差+10.6ポイント、全国も56.6と同+12.9ポイントそれぞれ大幅上昇した。いずれも3カ月ぶりに改善し、好不況の分かれ目である「50」を上回った。関西、全国ともにワクチン接種の進展や緊急事態宣言解除で行動規制が緩和されるとの期待もあり、飲食関連等を中心に改善した。

景気ウォッチャー調査の推移(2014年1月~21年9月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

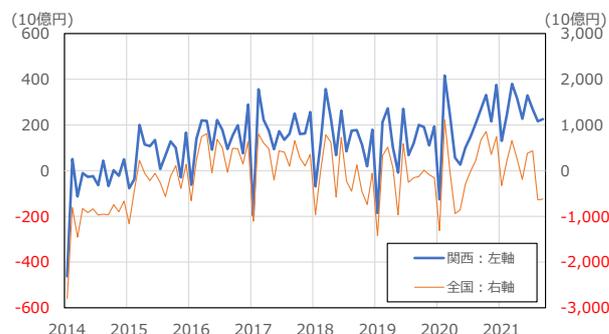
【外需関連】

(1) 貿易概況

財務省「貿易概況(速報)」によれば、関西9月の貿易収支は+2,258億円と20カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月比-16.3%縮小した。輸出、輸入ともに伸びたが、輸入の伸びが輸出を上回ったためである。

結果、7-9月期の貿易収支は+7,116億円となり、14年10-12月期以来黒字が続いている。貿易黒字は前年同月比+13.8%で、5四半期連続の拡大となった。

関西・全国の貿易収支の推移(2014年1月~21年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

(2) 輸出

関西9月の輸出額(速報)は1兆6,162億円で前年同月比+21.2%と7カ月連続の増加となったが、伸びは前月(同+26.2%)から減速した。財別にみれば、主に半導体等電子部品、鉄鋼等が増加した。なお、半導体等電子部品の輸出は月別で過去最高額となった。結果、7-9月期は前年同月比+24.0%と4四半期連続の増加となった(4-6月期:同+31.8%)。

全国9月の輸出額(速報)は6兆8,412億円で、前年同月比+13.0%と7カ月連続で増加したが、伸びは前月(同+26.2%)から大幅減速した。主に鉄鋼、鉱物性燃料、半導体等電子部品等が増加したが、自動車輸出の大幅落ち込みが影響した(同-40.3%)。

関西・全国の輸出の推移(2014年1月~21年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

なお、日本銀行大阪支店の「実質輸出入」によれば、関西9月の実質輸出(速報)は116.1(季節調整値、2015年平均=100)で前月比-3.6%となり、2カ月ぶりの低下(前月:同+0.6%)。結果、7-9月期の実質輸出は前期比-3.9%低下し、5四半期ぶりのマイナスとなった(4-6月期:同+5.9%)。

また、全国9月の実質輸出は106.3で同-6.5%となり、2カ月連続の低下であった(前月:同-3.7%)。

(3) 輸入

関西9月の輸入額(速報)は1兆3,904億円で、前年同月比+30.7%と8カ月連続の増加となり前月(同+30.6%)に引き続き高い伸びとなった。財別に見ると、主に通信機、天然ガス及び製造ガス等が増加した。結果、7-9月期は前年同期比+26.0%と3四半期連続の増加となり、伸びは前期(同+12.7%)から加速した。

全国9月の輸入額(速報)は7兆4,640億円で、前年同月比+38.6%と8カ月連続の増加であった(前月:同+44.7%)。原油、医薬品、石炭等が増加した。

また、9月の実質輸入(速報)は103.2(季節調整値、2015年平均=100)で前月比+3.5%となり、2カ月連続の上昇であった(前月:同+0.3%)。結果、7-9月期の実質輸入は前期比+0.0%で横ばいとなった(4-6月期:同-1.2%)。

全国9月の実質輸入は106.1で同-0.1%となり、2カ月ぶりの低下であった(前月:同+2.0%)。

関西・全国の輸入の推移(2014年1月~21年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

(4) 地域別貿易

関西9月の貿易収支を地域別に見ると、対アジアの貿易収支は+2,757億円と20カ月連続の黒字となったが、前年同月比-0.8%縮小した。うち、対中貿易収支は-530億円と2カ月連続の赤字(前年同月差-681億円)。対米貿易収支は+1,042億円の黒字(前年同月比+12.2%)、対EU貿易収支は-259億円と9カ月連続の赤字となった(同-40.9%)。

対アジア向け輸出額(1兆886億円)は前年同月比+18.9%と10カ月連続の増加。一方、輸入額(8,129億円)は同+27.5%と8カ月連続の増加となった。輸出増に寄与した品目は半導体等電子部品、鉄鋼等で、輸入増に寄与した品目は通信機、鉄鋼等であった。

うち、対中輸出額(4,165億円)は前年同月比+11.9%と16カ月連続の増加。一方、輸入額(4,695億円)は同+31.4%と4カ月連続の増加。輸出増に寄与した品目は半導体等電子部品、金属製品等で、輸入増に寄与した品目は通信機、衣類及び同附属品等であった。

対米輸出額(2,176億円)は前年同月比+14.3%と7カ月連続の増加。また、輸入額(1,134億円)は同+16.2%と7カ月連続の増加。輸出の増加に寄与した品目は医薬品、鉱物性燃料等で、輸入の増加に寄与した品目は有機化合物、肉類及び同調整品等であった。

対EU(英国を除く27カ国ベース)輸出額(1,677億円)は前年同月比+42.0%と7カ月連続の増加。また、輸入額(1,936億円)は同+19.5%と9カ月連続の増加。輸出の増加に寄与した品目は建設用・鉱山用機械、遊戯用具等で、輸入の増加に寄与した品目は医薬品、アルコール飲料等であった。

(5) 関空の出入国者数

法務省「出入国管理統計(速報値)」によれば、9月の関空経由の外国人入国者数は3,079人と前月(2,476人)から幾分増加した(前々年同月比-99.5%)。8月16日以降、政府が1日当たりの日本への入国者数の上限を2,000人から3,500人に緩和した影響が表れたようである。7-9月期では

8,331 人となり、4-6 月期(6,703 人)から増加したが、コロナ禍の影響のない前々年同期の水準(203 万 1,655 人)と比較すれば、低水準が続いている。

日本人出国者数は 4,090 人と前月(5,778 人)から減少した(前々年同月比-98.8%)。7-9 月期では 12,866 人となり、前期(8,385 人)から増加したが、依然底這いの状況が続く。

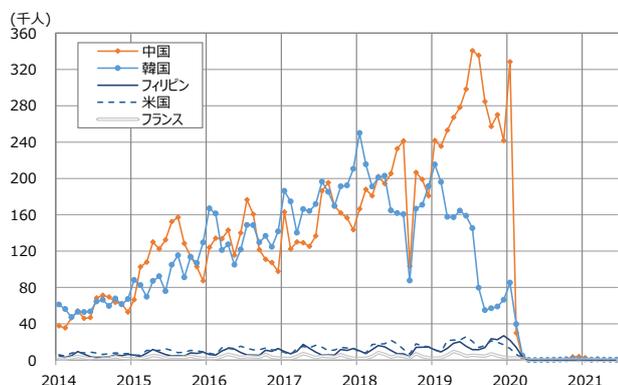
訪日外客数と出国日本人数の推移(2014 年 1 月~21 年 9 月)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

国籍別・地域別にみれば(出入国管理統計月報)、7 月の関空訪日外客の総数は 2,774 人で、前月(2,361 人)から増加した。伸び率は、前々年同月と比べると、-99.6%と大幅減少が続く。上位 5 カ国・地域をみれば、中国からの入国者が 487 人(前々年同月比-99.9%)と最多であった。次いで韓国が 418 人(同-99.7%)、フランス 261 人(同-95.3%)、米国が 178 人(同-99.1%)、フィリピンが 174 人(同-98.5%)であった。東京オリンピックの選手や関係者の一部が事前合宿の関係で入国したこともあり、フランスの入国者が前月(25 人)から増加した。

国籍別・地域別訪日外客数(2014 年 1 月~21 年 7 月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

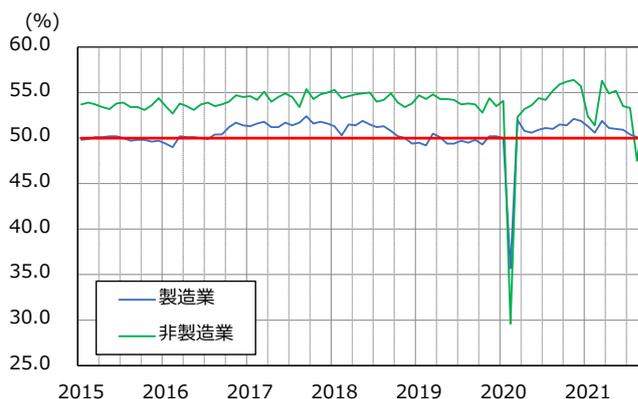
【中国景気モニター】

(1) センチメント

9 月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は 49.6%と、前月から-0.5%ポイント低下し、6 カ月連続で悪化した。2020 年 2 月(35.7%)以来、19 カ月ぶりに景気分岐点(50)を下回った。また、非製造業 PMI は 53.2%と、同+5.7%ポイント上昇し、2 カ月ぶりに景気分岐点を上回った。

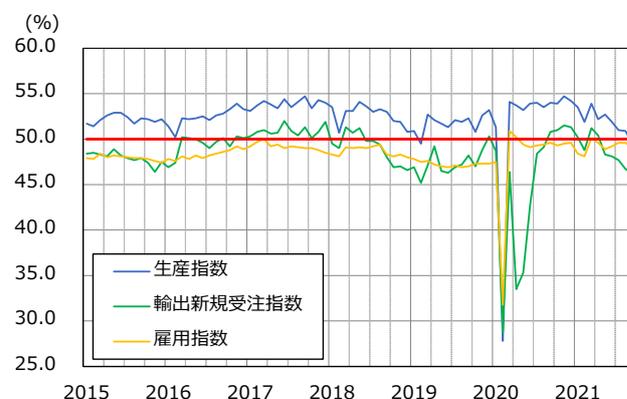
製造業 PMI のうち、生産指数は 49.5%と前月から-1.4%ポイント低下し、4 カ月連続の悪化となり、19 カ月ぶりに景気分岐点を下回った。輸出新規受注指数は 46.2%と同-0.5%ポイント低下し、6 カ月連続の悪化。5 カ月連続で景気分岐点を下回った。雇用指数は 49.0%と同-0.6%ポイント低下し、6 カ月連続で景気分岐点を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2015 年 1 月~21 年 9 月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2015 年 1 月~21 年 9 月)

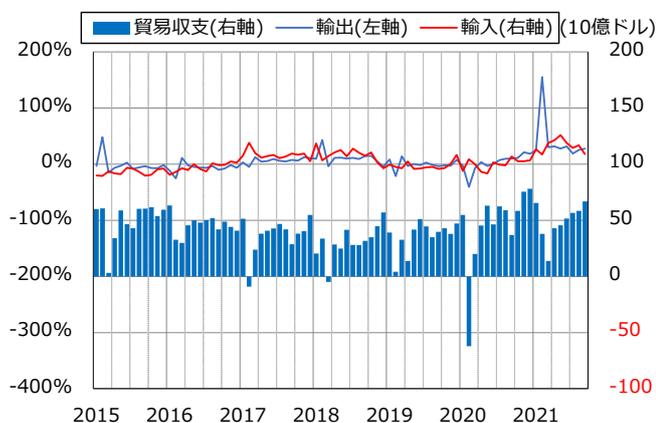


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

9月の貿易収支は667.6億ドルで、19カ月連続の黒字となった。黒字幅は前年同月比+80.4%と3カ月ぶりに大幅拡大した(前月:同-1.0%)。輸出の伸びが前月から加速し、輸入の伸びが前月から減速したためである。輸出額(速報値、ドル・ベース)は3,057.4億ドルで、同+27.5%となり前月(同+25.1%)から加速した。一方、輸入額は2,389.8億ドルで、同+17.9%と前月(同+33.8%)から減速した。また、貿易総額(輸出+輸入)は、同+23.1%と16カ月連続で拡大し、伸びは前月から-5.7%ポイントと2カ月ぶりに減速した。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2015年1月~21年9月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース

[地域別貿易状況]

地域別に見ると、9月の対日貿易収支は-37.3億ドル(前月:-28.3億ドル)で、16カ月連続の赤字となった。対日輸出額は144.0億ドルとなり、前年同月比+15.2%と12カ月連続の増加。対日輸入額は181.3億ドルとなり、同+5.5%と13カ月連続の増加であった。

対韓貿易収支は-71.7億ドル(前月:-53.2億ドル)の赤字となった。対韓輸出額は127.0億ドルで前年同月比+27.9%と15カ月連続の増加。対韓輸入額は198.7億ドルとなり、同+13.3%と13カ月連続の増加であった。

対ASEAN貿易収支は41.8億ドル(前月:67.1億ドル)の黒字となった。対ASEAN輸出額は403.6億ドルで前年同月比+17.3%と16カ月連続の増加。対ASEAN輸入額は361.9

億ドルで同+17.3%と16カ月連続の増加であった。

対米貿易収支は420.0億ドル(前月:376.9億ドル)の黒字となった。対米輸出額は574.0億ドルで前年同月比+30.6%と16カ月連続で増加した。また、対米輸入額は154.0億ドルで、同+16.6%と16カ月連続の増加であった。

対EU貿易収支は185.0億ドル(前月:209.5億ドル)の黒字となった。対EU輸出額は444.7億ドルで前年同月比+28.6%と11カ月連続の増加。また、対EU輸入額は259.7億ドルとなり、同+1.1%と13カ月連続で増加した。

貿易総額シェアのトップ3であるASEAN(14.1%)、米国(13.4%)、EU(12.9%)の動向を見ると、貿易総額はASEAN(前年同月比+17.3%)と米国(同+27.3%)は16カ月連続、EU(同+16.9%)は11カ月連続で、それぞれ拡大した。

(3) 工業生産

9月の工業生産は前月比+0.05%小幅上昇した。伸びは前月から-0.26%ポイントと2カ月ぶりの減速。また、前年同月比は+3.1%上昇し、伸びは前月(同+5.3%)から-2.2%ポイントと7カ月連続で減速した。

工業生産指数(2015年1月~21年9月)



(注) 各年の1-2月は統計が未公表のため線形補完を行っている

(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

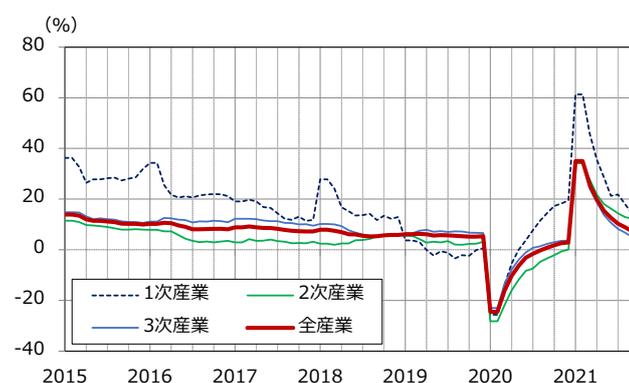
産業別に見ると、9月は医薬製造業(前年同月比+26.5%)、電力・熱力生産・供給業(同+9.7%)、パソコン・通信設備製造業(同+9.5%)などが高い伸びを示した。一方、農業副食品加工業(同+2.5%)、有色金属圧延加工業(同+1.2%)、化学原料・化学製品製造業(同+0.0%)などは比較的低い伸びにとど

まった。なお、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同-9.7%)、自動車製造業(同-8.2%)、繊維工業(同-5.8%)等は減産となった。製造業が密集している長江デルタ地域と珠江デルタ地域などでは計画停電が実施され、生産活動に悪影響が広がっている。

(4) 固定資産投資

1-9 月期の累積固定資産投資(名目: 39.8 兆元)は前年比+7.3%となり、1-8 月期(以下、前月)から-1.6%ポイントと7 カ月連続で減速した。うち、国有資産投資(17.0 兆元)は、同+5.0%と前月から-1.2%ポイント、民間資産投資(22.7 兆元)は同+9.8%と前月から-1.7%ポイント、いずれも減速した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2015年1月~21年9月)



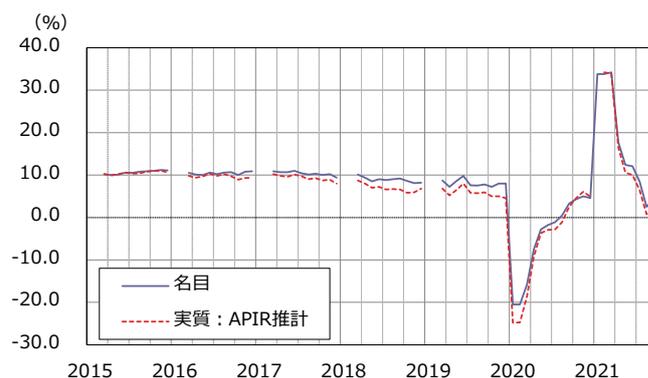
(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、第1次産業は前年比+14.0%増加し、伸びは1-8 月期(以下、前月)(同+18.1%)から減速した。第2次産業は同+12.2%増加したが、伸びは前月(同+12.9%)から減速した。第3次産業は同+5.0%増加したが、伸びは前月(同+6.8%)から減速した。

(5) 消費

9月の社会消費品小売総額(名目)は3.68兆円で前年同月比+4.4%増加し、伸びは前月(同+2.5%)から加速した。うち、電子商取引の小売総額は1.06兆円で、同+9.3%と19 カ月連続の増加。電子商取引が社会消費品小売総額全体に占めるシェアは28.9%となり、前年同月差+1.3%ポイントと2 カ月連続で拡大した。

社会消費品小売総額(2015年1月~21年9月)

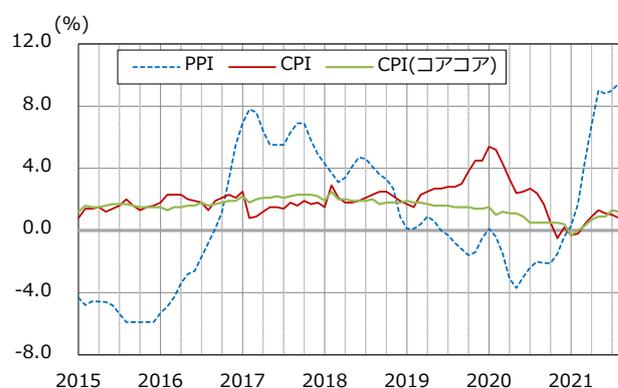


(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

9月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+0.7%と7 カ月連続の上昇。伸びは前月から-0.1%ポイントと4 カ月連続で減速した。一方、食料・エネルギーを除く消費者物価コアコア指数は同+1.2%と7 カ月連続の上昇。伸びは前月から横ばい。

消費者物価指数・生産者物価指数(2015年1月~21年9月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

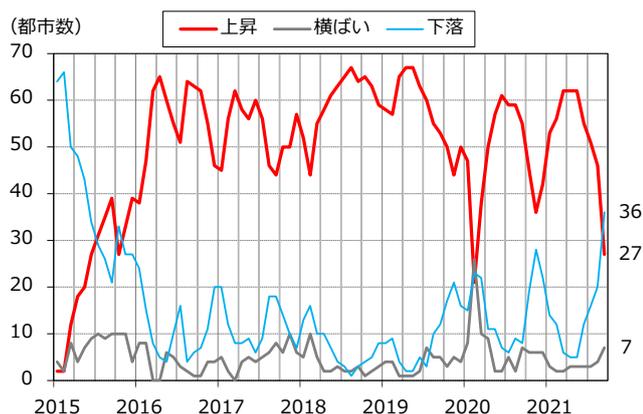
また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+10.7%と9 カ月連続のプラス。石炭等の資源価格の急騰が影響し、伸びは前月から+1.2%ポイントと加速した。生産者物価指数の伸びが始まった1996年10月以来、最も高い伸びを記録した。

(7) 不動産市場

9月の不動産市場(新築住宅価格)は、価格が上昇した都市数は4 カ月連続で減少した。中国主要70 都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は27 で前月から19 都市減少した。一方、

下落した都市数は36で前月から16都市増加した。また、横ばいの都市数は7で前月から3都市増加した。半分以上の都市において新規住宅価格が下落したのは、2015年5月以来となった。不動産投機を抑えるための取引規制などに加え、恒大集団の債務危機により、市場マインドが冷え込んでいる。

主要70都市新築住宅価格動向(2015年1月~21年9月)

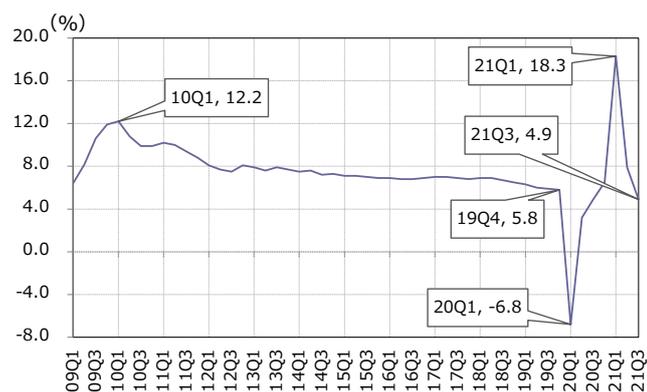


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) GDP

7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+4.9%で、4-6月期(同+7.9%)から-3.0%ポイント低下した。一方、前期比では+0.2%と4-6月期(同+1.2%)から減速した。

実質GDP成長率の推移(前年同期比; 2009年Q1~21年Q3)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、7-9月期の第1次産業の成長率は前年同期比+7.1%、第2次産業は同+3.6%、第3次産業は同+5.4%となった。いずれも6四半期連続のプラス成長であったが、

伸びは前期から-0.5%ポイント、-3.9%ポイント、-2.9%ポイント減速した。

(9) 今月の中国経済レビュー

2021年7-9月期、中国の実質GDP成長率は4-6月期に比して大幅下落した。主な原因として、7月以降の洪水被害をはじめとする自然災害の頻発や、9月の一部地域における電力供給制限が、製造業を中心に大きな影響を与えた。今回の電力制限は、石炭、石油など国際市況の高騰による工業用電力供給不足などの短期的要因、および「2060年カーボンニュートラル」実現のための産業構造転換と排出削減目標の達成などの長期的要因がある。また、7-8月は全国的にCOVID-19変異株の感染再拡大による移動制限により、旅行、飲食など、夏休みのレジャー消費に大きな打撃を与えた。さらに、不動産市場に対する資金調達規制(三条紅線)が影響した。

9月では、前述の電力制限の影響で製造業をはじめとする企業マインドの生産活動と雇用の停滞、および前年同期にコロナ禍で落ち込んだ反動増の効果が薄れるにつれて消費の伸びの鈍化など、景気に対する不透明感が高まっている。

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	20/10M	20/11M	20/12M	21/1M	21/2M	21/3M	21/4M	21/5M	21/6M	21/7M	21/8M	21/9M
生産												
[関西]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)	92.8	93.2	92.6	98.6	97.6	96.1	98.6	96.7	100.0	99.0	96.3	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.5	0.4	-0.6	6.5	-1.0	-1.5	2.6	-1.9	3.4	-1.0	-2.7	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、15年=100)	91.1	92.7	91.1	99.1	96.4	96.8	100.9	96.7	99.7	96.2	95.4	UN
[関西]出荷指数(季節調整値、前月比)	0.7	1.8	-1.7	8.8	-2.7	0.4	4.2	-4.2	3.1	-3.5	-0.8	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、15年=100)	95.9	95.1	94.9	93.8	95.2	96.8	94.3	95.7	92.9	97.2	97.5	UN
[関西]在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.5	-0.8	-0.2	-1.2	1.5	1.7	-2.6	1.5	-2.9	4.6	0.3	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、15年=100)	93.5	94.2	94.0	96.9	95.6	97.2	100.0	93.5	99.6	98.1	94.6	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	2.1	0.7	-0.2	3.1	-1.3	1.7	2.9	-6.5	6.5	-1.5	-3.6	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、15年=100)	92.7	93.5	92.9	95.6	94.4	94.8	97.7	92.3	96.7	96.4	92.2	UN
[全国]出荷指数(季節調整値、前月比)	2.2	0.9	-0.6	2.9	-1.3	0.4	3.1	-5.5	4.8	-0.3	-4.4	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、15年=100)	96.6	95.4	96.0	95.1	94.4	94.8	94.7	93.7	95.7	95.0	94.9	UN
[全国]在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.0	-1.2	0.6	-0.9	-0.7	0.4	-0.1	-1.1	2.1	-0.7	-0.1	UN
労働												
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.2	3.3	3.4	3.4	3.2	2.8	3.3	3.2	3.2	3.1	3.1	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.3	2.9	3.1	3.2	3.2	2.9	3.3	3.3	3.4	3.3	3.2	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.6	2.8	3.0	2.9	2.8	2.8	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.02	1.02	1.01	1.05	1.06	1.05	1.04	1.05	1.10	1.09	1.06	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.04	1.05	1.05	1.10	1.09	1.10	1.09	1.09	1.13	1.15	1.14	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.87	2.08	2.09	2.13	1.97	2.07	1.92	2.19	2.19	1.89	1.95	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.84	2.04	2.11	2.03	1.88	1.99	1.82	2.09	2.08	1.98	1.97	UN
[関西]名目現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-1.7	-1.3	-3.7	0.7	-0.0	1.1	1.2	2.3	1.3	0.3	UN	UN
[関西]実質現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-1.4	-0.3	-2.3	0.0	0.5	1.4	1.9	2.7	1.2	0.1	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	-0.7	-1.8	-3.0	-1.3	-0.4	0.6	1.4	1.9	0.1	0.6	0.6	UN
小売												
[関西]大型小売店販売額(10億円)	288.7	297.2	372.9	289.5	265.2	293.1	265.2	239.0	289.3	309.2	278.5	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-1.2	-7.5	-8.0	-11.0	-4.9	4.0	20.9	-0.0	-1.5	1.4	-6.4	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,630.3	1,678.1	2,103.6	1,628.4	1,496.9	1,670.1	1,552.6	1,541.0	1,642.0	1,713.7	1,607.9	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	4.0	-3.2	-3.3	-5.8	-3.3	2.8	15.7	6.0	-2.2	1.3	-4.8	UN
住宅・建設												
[関西]新設住宅着工(原数値、戸数)	11,061	12,102	10,453	8,720	10,324	11,497	13,182	10,264	11,571	13,184	11,194	UN
[関西]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)	-2.2	7.9	-13.2	-10.6	-6.0	-1.3	31.4	1.3	5.4	11.9	15.2	UN
[全国]新設住宅着工(原数値、戸数)	70,685	70,798	65,643	58,448	60,764	71,787	74,521	70,178	76,312	77,182	74,303	UN
[全国]新設住宅着工(原数値、前年同月比%)	-8.3	-3.7	-9.0	-3.1	-3.7	1.5	7.1	9.9	7.3	9.9	7.5	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	10,978	11,565	11,098	9,367	10,608	11,380	12,396	11,022	11,490	12,122	11,667	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	1.1	5.3	-4.0	-15.6	13.2	7.3	8.9	-11.1	4.2	5.5	-3.8	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	67,724	68,210	65,328	66,757	67,299	73,359	73,583	72,942	72,202	77,186	71,265	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	1.2	0.7	-4.2	2.2	0.8	9.0	0.3	-0.9	-1.0	6.9	-7.7	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	57.8	69.0	82.0	63.0	76.2	76.3	62.5	82.6	72.2	72.9	59.5	60.2
[関西]マンション契約率(原数値)	58.0	69.3	80.0	61.2	78.5	74.8	62.0	78.3	73.2	73.4	65.0	59.4
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	73.8	64.8	64.1	69.2	76.2	69.0	74.2	68.4	69.8	63.5	73.3	67.6
[首都圏]マンション契約率(原数値)	70.4	58.1	62.6	68.1	76.0	73.6	73.6	69.3	72.5	68.3	73.0	67.7
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	592.4	621.7	652.9	637.0	619.7	609.1	533.6	523.0	532.6	539.8	556.1	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	3.2	5.7	8.0	4.6	2.5	1.1	2.1	5.1	1.1	1.9	2.4	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,737.3	4,826.0	4,924.5	4,838.6	4,703.0	4,788.2	3,928.6	3,752.0	4,006.0	4,146.0	4,296.5	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	-1.4	-1.0	0.1	-0.3	-0.1	0.6	-0.0	0.0	1.6	2.1	1.5	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	2,197.0	2,283.2	2,376.3	2,334.8	2,238.5	2,328.4	1,566.4	1,421.1	1,575.5	1,640.2	1,721.5	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	6.1	6.1	7.7	5.8	5.4	5.4	1.8	-0.6	0.5	-0.2	-3.6	UN
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	156.2	96.5	111.3	67.3	84.8	165.0	277.8	143.6	169.4	140.8	122.0	150.5
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-17.6	-27.6	16.5	-26.8	13.3	4.5	-13.2	18.9	5.6	0.2	11.0	-16.7
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,342.6	881.4	734.5	632.8	648.5	1,515.6	2,094.0	1,413.3	1,650.8	1,389.8	1,157.5	1,268.2
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-0.4	-3.3	-8.6	-1.4	-7.3	1.9	-9.2	6.3	0.7	-9.9	-11.0	-15.1
消費者心理												
[関西]消費者態度指数(季節調整値)	32.5	31.8	30.0	28.5	33.4	36.6	34.5	34.2	37.8	37.5	36.8	37.2
[関西]暮らし向き(季節調整値)	34.9	34.6	33.1	30.8	36.4	39.0	37.2	37.0	38.9	39.4	38.2	39.1
[関西]収入の増え方(季節調整値)	34.3	33.8	33.2	32.1	35.1	37.3	36.7	36.5	37.2	37.3	37.4	37.3
[関西]雇用環境(季節調整値)	25.6	25.4	21.1	20.6	26.3	31.4	29.4	27.7	36.3	35.1	34.1	33.4
[関西]耐久消費財の買い時判断(季節調整値)	34.7	33.6	32.3	30.3	35.7	39.5	35.3	35.9	39.2	38.8	38.2	37.4
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	33.5	33.5	32.0	29.9	33.9	36.1	34.7	34.1	37.4	37.5	36.7	37.8
景況感												
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	49.2	39.9	31.7	31.7	42.4	49.8	33.3	38.2	49.3	49.7	36.2	42.0
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	44.4	33.9	37.6	38.4	51.6	46.9	39.2	50.1	50.3	46.2	43.9	54.5
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	53.0	43.8	34.3	31.2	41.3	49.0	39.1	38.1	47.6	48.4	34.7	42.1
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	47.7	35.0	36.1	39.9	51.3	49.8	41.7	47.6	52.4	48.4	43.7	56.6
国際貿易												
[関西]純輸出(10億円)	330.8	215.3	375.0	130.6	241.8	379.7	316.3	227.0	329.0	270.1	215.7	225.8
[関西]輸出(10億円)	1,430.7	1,298.1	1,487.4	1,289.1	1,311.6	1,630.0	1,597.5	1,383.4	1,608.0	1,556.0	1,520.0	1,616.2
[関西]輸出(前年同月比%)	2.3	-4.0	5.2	13.3	-1.4	14.6	24.5	33.2	38.7	25.0	26.2	21.2
[関西]輸入(10億円)	1,099.9	1,082.9	1,112.5	1,158.5	1,069.8	1,250.3	1,281.2	1,156.4	1,279.1	1,285.9	1,304.3	1,390.4
[関西]輸入(前年同月比%)	-8.9	-12.7	-8.9	-8.3	17.1	6.3	4.5	14.2	20.8	17.4	30.6	30.7

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

【Release Calendar】

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
27-Sep 近畿地域 鉱工業生産動向 (7月:確報) 出入国管理統計 (7月)	28-Sep	29-Sep 全国貿易統計 (7月:確報) 全国貿易統計 (8月:確・速報)	30-Sep 全国鉱工業指数 (8月:速報) 商業動態統計 (8月:速報) 建築着工統計調査 (8月) 中国 PMI (9月)	1-Oct 労働力調査 (8月) 一般職業紹介状況 (8月) 消費動向調査 (9月) 近畿圏貿易概況 (7月:確報) 近畿圏貿易概況 (8月:確・速報)
4-Oct	5-Oct	6-Oct	7-Oct	8-Oct 毎月勤労統計調査 (8月:速報) 百貨店・スーパー販売 状況(8月:速報) 景気ウォッチャー調査 (9月)
11-Oct	12-Oct	13-Oct 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月速報)	14-Oct 全国鉱工業指数 (8月:確報) 中国 CPI (9月)	15-Oct 商業動態統計 (8月:確報) 公共工事前払金保証 統計(9月) 出入国管理統計 (9月:速報)
18-Oct マンション市場動向 (9月) 中国工業生産(9月) 中国固定資産投資 (9月) 中国消費小売総額 (9月)	19-Oct 建設総合統計 (8月) 中国 GDP(7-9月期)	20-Oct 近畿圏貿易概況 (9月:速報) 全国貿易統計 (9月:速報) 中国不動産市場 (9月)	21-Oct	22-Oct 毎月勤労統計調査 (8月:確報) 実質輸出入 (9月)
25-Oct 出入国管理統計 (8月) 百貨店免税売上 (9月)	26-Oct 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月確報)	27-Oct	28-Oct 商業動態統計 (9月:速報) 全国貿易統計 (8月:確報) 全国貿易統計 (9月:確・速報)	29-Oct 全国鉱工業指数 (9月:速報) 労働力調査 (9月) 一般職業紹介状況 (9月) 建築着工統計調査 (9月) 消費動向調査 (10月)

*印は発表予定日が未定。